

登別市史編さんだより

資料調査を進めています～道立文学館、日本聖公会北海道教区会館～

6月28日、北海道立文学館と日本聖公会北海道教区会館（共に札幌市）を訪問し、資料を調査してきました。



資料調査の様子（日本聖公会北海道教区会館）

●北海道立文学館

北海道立文学館には、登別市出身の言語学者・知里真志保が残したノートが多数保管されています。

知里真志保には、『アイヌの鮭漁－幌別における調査－』をはじめ、多くの著作がありますが、道内外で行った調査の内容を記録して執筆の基にしたのが、これらのノートです。

ノートには、著作に盛り込まれなかった事柄のほかに似顔絵などの落書きもあり、厳格な研究者であった同氏の違う一面も知ることができます。

●日本聖公会北海道教区会館

明治21（1887）年に幌別町でアイヌ民族の児童を主な対象として開校した愛隣学校。この学校を運営していたのが日本聖公会です。

愛隣学校や幌別における日本聖公会の活動については不明な部分が多いため、今回、日本聖公会北海道教区会館を訪問し、資料の調査をしてきました。

調査の結果、幌別出身のアイヌ民族で日本聖公会の信者でもあった二人について、洗礼名や死亡年月日などが混同されて伝えられていること、資料によって異なる年代が記されている同じ事柄について正しい年代を確認することなどができました。

金井抱二日記の読解も進んでいます

前号で紹介した金井抱二日記の読解は、市職員2名のほか5名が参加して毎月1回行っています。

参加者が順番に日記を読み、読解の難しい部分があったときは、お互いに意見を出し合って、解決に向けて話し合っています。

日記には、仕事で起きたことや習ったこと、同僚との交際や故郷を懐かしみ、両親や兄弟のことを思う様子、電話の架設や鉾山小学校の建設など地域の出来事も書かれています。

また、この読解の作業を知った金井抱二氏の子孫の方からもご連絡をいただき、同氏に関する思い出などを教えていただきました。



話し合いながら日記の読解を進める様子

街並み今昔（青葉町、若山町、緑町）

前回の富岸町から東に進み、40～50年前の青葉町や若山町、緑町の様子を紹介します。

●現在の道南バス若山営業所付近から総合体育館方向を望む



昭和50（1975）年頃



現在（平成30年7月撮影）

総合体育館が昭和49（1974）年に完成し、道路の向かい側では旧北海道登別南高等学校（昭和54（1979）年開校、現在の北海道登別青嶺高等学校）建設に向けて整地作業が行われています。

この地区に長くお住まいの方からは、「湿地が広がっており、放牧していた牛が点在する「ヤチマナコ（底なし沼）」に落ちて、その救助が大変だった」ことや「山側を流れる小さな沢水が大変冷たくて、暑い時期に手や足を浸すととても気持ちがよかった」ことなどの思い出をお聞きしています。

●昭和36年の緑町2丁目・3丁目の様子



昭和36（1961）年8月撮影（新登津町内会・佐藤氏所蔵）

胆振幌別川の上空から緑町方向を撮影した写真です。

写真下側の三日月型の沼は、胆振幌別川の流れが蛇行していた跡で、旧登別大谷高等学校のグラウンドの辺りです。

この沼のほとりからは土偶が出土しており、約2千3百年前の縄文時代晩期にはすでに人が生活していたことが分かります。

写真上側には、幌別駐屯地の建物を確認できますが、大部分を畑が占めており、この頃の緑町は、農村地帯の面影を色濃く残していました。

◎資料に関する情報提供のお願い

市史編さんグループでは、昔の登別を知る手掛かりとなる資料についての情報を集めています。

お祭りやまちの様子を写した写真や映像、当時の日記など、お心あたりのある方はご連絡ください。

（連絡先）登別市総務部市史編さんグループ 千葉・更科・玉田・小坂

電話：0143-50-6039 FAX：0143-85-1108